



2022(仏暦2565)年 7月号 (第130号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派 万行寺

住職 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾 4 6 1 - 1

電話 0267-67-2460



■住職法話

目に見えない「いただきもの」

■浄土真宗 (新) 仏事のイロハ

■本願寺の本

年間購読「大乗」
だいじょう

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2021(令和 3)年	23 回忌	2000(平成12)年
3 回忌	2020(令和 2)年	25 回忌	1998(平成10)年
7 回忌	2016(平成28)年	27 回忌	1996(平成 8)年
13 回忌	2010(平成22)年	33 回忌	1990(平成 2)年
17 回忌	2006(平成18)年	50 回忌	1973(昭和48)年

住職 法話

今月の法語

この心も身も全部

如来からの

いただきますもの

目に見えない “いただきますもの”

間の力ではない不思議なものからいただいた不思議な力です。

と書かれています。この言葉の中の、いただきますもの、たまたわった命とありますと、ただいま子育て中の十歳の娘のことを考えます。

法語は、宗教学者の大峯顕先生の著書、『本願海流』（本願寺出版社）の中にあります。先生はこの言葉の後に、この命は私の中で動いていなければならない、私の所有物ではないんです。たまたわった命です。誰のものでもないということ。如来のものという事です。ただの物質という意味ではなくて、人

のが現実です。

結婚二十年目になる私たちですが、なかなか子が授からず夫婦で不妊治療を経てやっと授かった命でした。先ほどの、いただきますもの、たまたわった命ということをも身をもって感じてきた私たちでした。夫婦で、子が授からない人生も考えた時期を経験し、そしてやっと子が授かってみると、かけがえのない大切な如来さまからたまわったいただきますものという思いでした。しかし、今では子育てに追われて、それも懐かしく感じる日々を過ごしてしまっています。あらためて法語の言葉を味わっていると

今では子育てに追われて、それも懐かしく感じる日々を過ごしてしまっています。あらためて法語の言葉を味わっていると

お釈迦さまの説かれた「縁起（ご縁）」は「因縁生起」と言つて、あらゆるものには必ず原因がありその結果として起こり存在しているという教えです。仏さまの眼を通して、「私の命」という自らの所有物として命を見るのではなく、私以外の誰か「あなた」のおかげによって存在している命であることがわかります。心身ともに、如来（仏さま）をはじめとした目には見えない何か誰かのおかげによる「いただきますもの」であるから、大切にしなければいけないのです。



ご縁を喜び、お念仏とともに

親鸞聖人 御誕生

850 00

立教開宗

浄土真宗

◎ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて―

「納棺尊号」

棺にお名号を入れる慣わしが…

出棺前に「納棺尊号」というお名号が書かれた和紙を棺に入れる慣わしがあります。これは、浄土真宗の礼拝の対象が阿弥陀さまであることと深く関わっています。と云うのは、葬儀場では、もちろん正面にお名号などのご本尊をお掛けして礼拝・読経が行われます。しかし、葬儀がすんで遺体を火葬場へ運び時や火葬場に着いてからは、ご本尊がない場合が多い

のです。つまり、そうした改めてご本尊を掛ける機会がない場合に、棺中のお名号が礼拝の対象になるわけです。たとえば、葬儀の時、いわゆる霊柩車に棺を乗せてお見送ります。この時、合掌礼拝します。遺体に手を合わせているようですが、実はそこに「納棺尊号」が置かれてあり、阿弥陀さまに合掌している形になっているのです。また、火葬場では、到着する



阿弥陀さまと一緒に

とすぐに棺の前で礼拝・読経が行われます。この時も棺の中の遺体ではなく「納棺尊号」に礼拝していることとなります。

私たちは、亡き人との縁が深ければ深いほど、その遺体への未練は絶ちがたく、亡き人への思いが募れば募るほど、遺体へ目が向いてしまいます。人間として、それはむしろ自然なふるまいと言えます。しよつ。

だからこそ、私は「納棺尊号」を入れる意味があるのだと思います。遺体にはお名号となった阿弥陀さまが付いていてくださるのです。まるで亡き人を包むかのように、しっかりと抱きとって、たとえ猛火の中でも、けっして捨てずに寄り添ってくださるのです。

火葬場で、遺体にすがって離れないご婦人がいました。その時、「あなたは一緒に窯の中には入れませんが、阿弥陀さまはご主人とともに入ってくださいますよ。どこまでも一緒に行ってくださいます。阿弥陀さまにお任せしましょうよ」と言つと、「婦人の顔がホッと安心されたような表情になりました。「たのむべきは阿弥陀さま」ということを「納棺尊号」によって知らせていただきました。

「浄土真宗 ◎ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

年間購読 「大乘」

本願寺出版社 刊

年間購読 4,500円(税込、送料共)

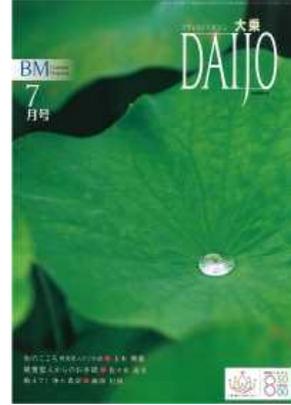
月刊 毎月1回1日発行 B5判(平常号88頁)

「大乘」は門信徒の家族が楽しく浄土真宗に親しむための月刊誌です。

お念仏のよろこびをご家族のみなさまにお届けいたします。

研修会や勉強会にも最適で門徒推進員の方にもおすすめです。

[本願寺出版社ホームページより]



携帯サイト

携帯電話からも商品をご注文いただけます。QRコードからアクセス→



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day

親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派
龍谷山 本願寺

編集後記

あべしんぞう
安倍晋三元首相の突然の死去は、衝撃とともに宗教社会を問われる事件がまた起きたと危惧しています。記憶に新しい、オウム真理教の事件以後は、法的には宗教法人の監視が厳しくなり、世間では宗教信仰は怖いものだというイメージが定着してしまいました。宗教離れと言われるようになったのもこの頃です。◆宗教は無くても生きてはいけません。しかし、今後、宗教に厳しい社会になったとしても、私は、仏教に帰依し親鸞さまの教えをお伝えしていく僧侶という立場に徹するのみです。

Instagram

